



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

# 学校だより 3月

令和5年3月1日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

## 美しい所作

校長 津田 利枝



5年生が茶道を体験している写真です。荒川区華道茶道文化会より講師の先生方にお越しいただき、ご指導いただきました。5年生は総合的な学習の時間に日本の伝統文化をテーマに、体験したり、調べたりしています。講師の先生から、お点前を見せていただいて茶筌の動かし方を学び、実際に自分で点てたお茶をいただきました。歴史、茶道具、しつらえ、おもてなしなど、茶道の奥の深さを知った子どもたちです。慣れない正座に苦闘しながらも、講師の先生方の美しい所作をまねて、背筋

を伸ばし、指先に意識を向けて、作法を学びました。

日常の学校生活においても、峡田小では、作法や所作を身に付ける場面がたくさんあります。校長室検定にやってくる子どもたちは、ノックをしてドアが開けられると、「〇年〇組 □□です。校長室検定にきました。よろしくお願いします」と丁寧に述べてから入っています。そして「失礼しました」と頭を下げ、退室します。1年生も、しっかり行っています。職員室に用事がある時には、入口で上着を脱ぎ、校帽をとり、ランドセルを下ろしてから、自分の名を名乗ってから用件を述べます。6年生は、3人組で行う校旗当番の活動を毎朝、行います。「国旗、区旗、校旗をとりにきました。」と述べ、旗をたるませないよう両手の上に乗せ、緊張感を持って、掲揚に向かいます。



「美しい所作」は一朝一夕に身につくものではありません。また、それは単に型や言葉遣いだけでなく、相手（もの）への敬意、思いやり、気遣いなど、心がこめられたものであると考えます。

さて、今年度は3年ぶりに来賓の皆様をお迎えし、在校生代表の5年生も参列して、卒業式を行います。小学校6年間の学びの成果や成長した姿、育ててもらった家族、地域の人々への感謝の気持ちを表す場が卒業式です。厳粛な場における規律や気品のある「美しい所作」にその気持ちを込めます。5年生は、その姿から、6年生の偉大さをあらためて知り、次期最高学年としての決意を固める場となります。

小学校生活の約半分をコロナ禍で過ごし、困難な日々においても決してくじけることなく、互いに助け合い、協力して、一つ一つ乗り越えてきた6年生に、下学年は感謝と敬意を伝える3月。学校は、最高かつ感動のフィナーレを迎えようとしています。